



証券コード 3160

**2020年5月期**  
**(2019年6月1日～2020年5月31日)**  
**決算説明資料**

**2020年7月13日**

## 1. 2020年5月期 決算概要

## 2. 2021年5月期 業績見通し

## 3. 補足資料

# 1. 2020年5月期 決算概要

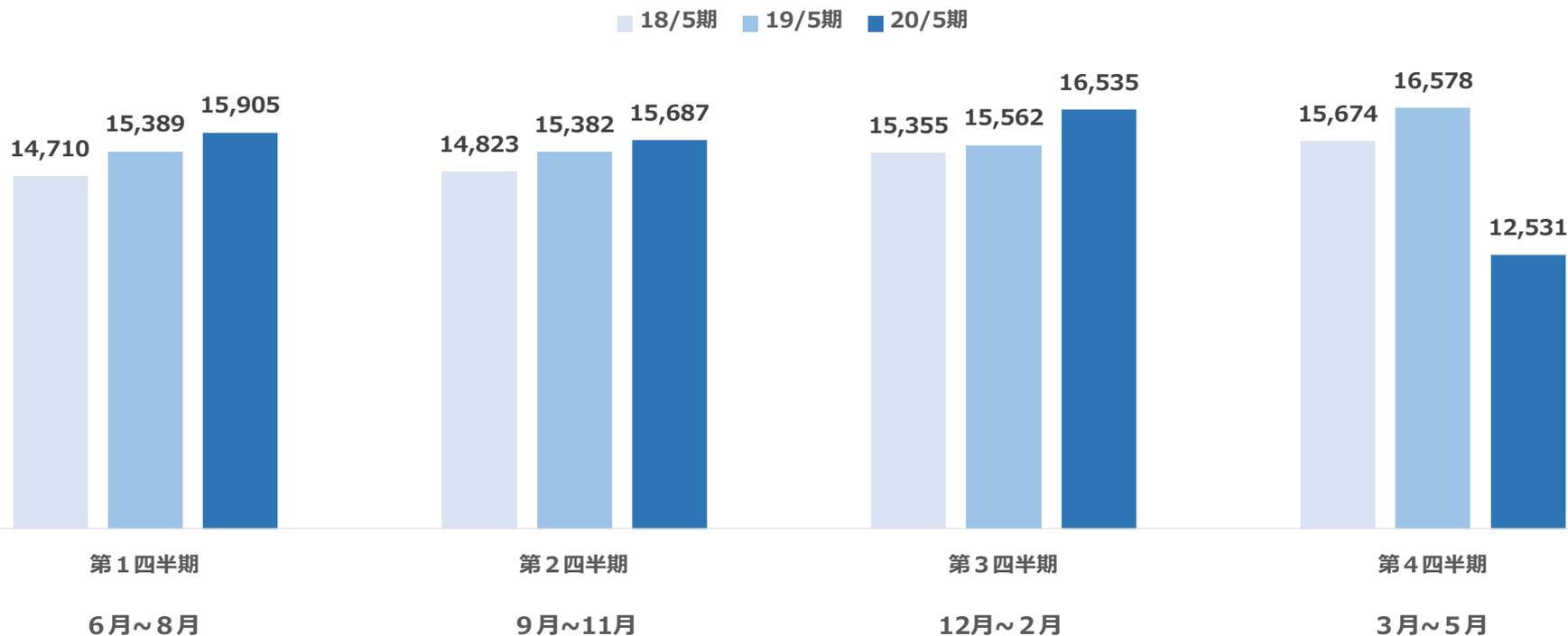
# 連結損益計算書

(単位：百万円)	19/5期	20/5期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	62,911	60,659	△ 2,252	△3.6%
売上総利益	11,719	11,684	△ 34	△0.3%
売上高比	18.6%	19.3%	+0.6%	
販売費及び一般管理費	11,069	11,283	+214	+1.9%
売上高比	17.6%	18.6%	+1.0%	
営業利益	649	400	△ 249	△38.3%
売上高比	1.0%	0.7%	△0.4%	
経常利益	704	473	△ 231	△32.8%
売上高比	1.1%	0.8%	△0.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	415	218	△ 196	△47.4%
売上高比	0.7%	0.4%	△0.3%	

減収減益、3月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴う売上減少が響いた

# 売上高 - 四半期別推移 -

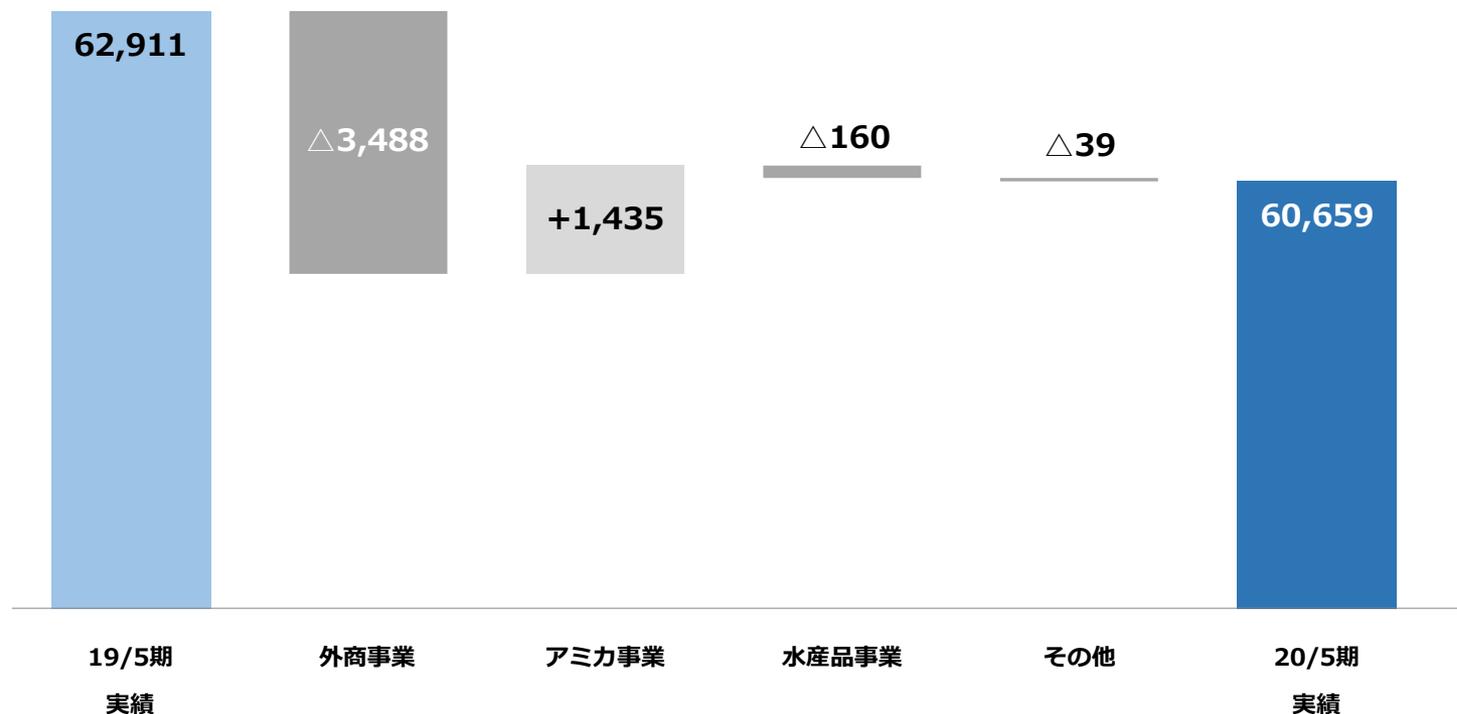
単位：百万円



第3四半期までは、売上は前年同期を上回り推移

第4四半期に入り、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や休業要請等が実施され  
外食チェーン、ホテル、レストランなど外食産業の経営環境が悪化  
これに伴い、当社の外商事業の売上が減少

単位：百万円



※ 「その他」の区分は、報告セグメントには含まれない太陽光発電事業及びセグメント間の内部売上高を含んでいます。

## 外商事業

3月以降、得意先における店舗休業、インバウンドや宴会需要の急速な減少などにより、売上が大きく減少したことが響いた

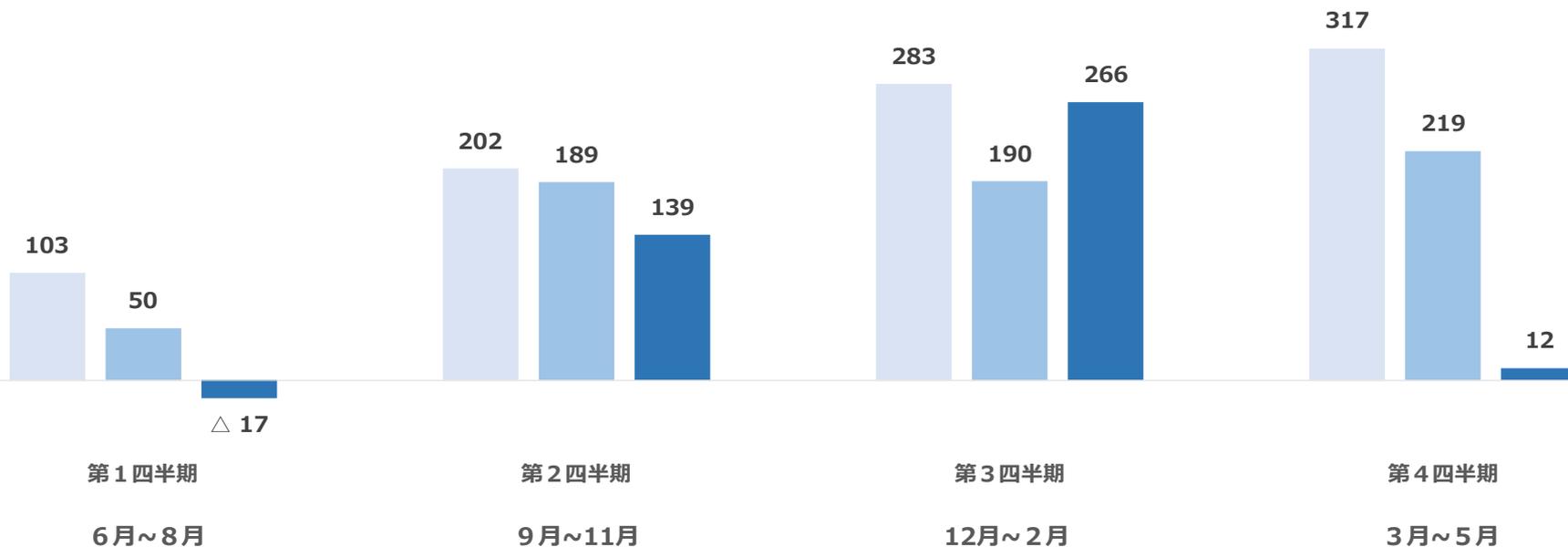
## アミカ事業

第3四半期までは、来店客数が向上し順調に推移  
3月以降、外食事業者の来店客数が減少したものの、一般消費者の来店客数が増加していることから、継続して売上は伸長している

# 営業利益 - 四半期別推移 -

単位：百万円

■ 18/5期 ■ 19/5期 ■ 20/5期



第2四半期までは、物流費等の経費増加の影響などから減益で推移

第3四半期には利益改善が進んだものの

第4四半期は売上の減少に伴う売上総利益の減少が響き、営業利益が減少

# セグメント別の概要

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前期比		19/5期	20/5期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率	実績	実績	増減額	増減率
外商事業	41,520	38,032	△ 3,488	△8.4%	128	△ 509	△ 638	-
アミカ事業	19,326	20,761	+1,435	+7.4%	1,408	1,834	+426	+30.3%
水産品事業	2,164	2,003	△ 160	△7.4%	51	12	△ 38	△75.0%
その他 ※	16	16	△ 0	△1.2%	3	4	+1	+35.3%
調整額 ※	△ 114	△ 154	△ 39	-	△ 943	△ 942	+0	-
連結	62,911	60,659	△ 2,252	△3.6%	649	400	△ 249	△38.3%

※ 「その他」の区分は報告セグメントには含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでいます。

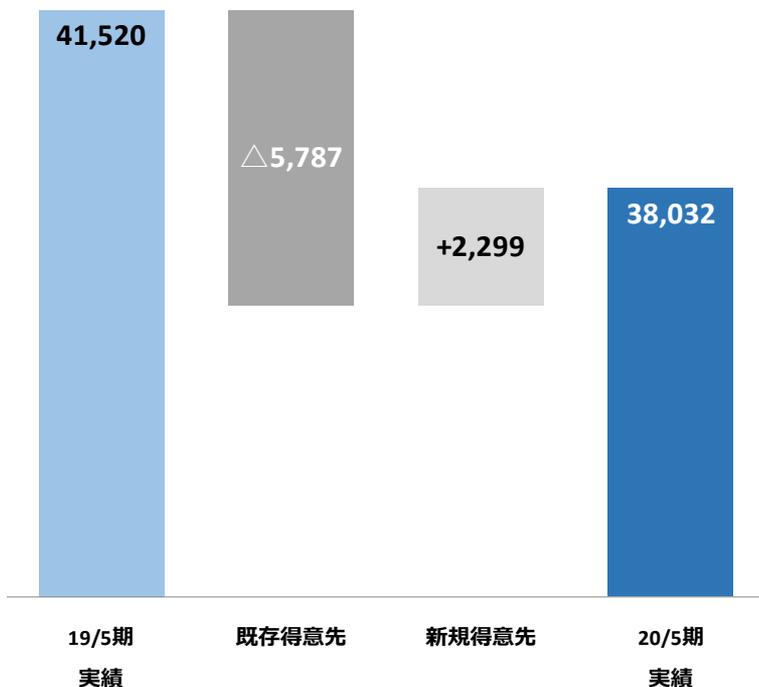
※ 売上高には、セグメント間の内部売上高を含めています。

※ 営業利益の「調整額」は、当社の本社経費等です。

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前期比		19/5期	20/5期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率	実績	実績	増減額	増減率
外商事業	41,520	38,032	△ 3,488	△ 8.4%	128	△ 509	△ 638	-

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 一部の居酒屋業態得意先における売上不振に加え、3月以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響から既存得意先売上は減少
- 新規得意先による売上は22億円増加

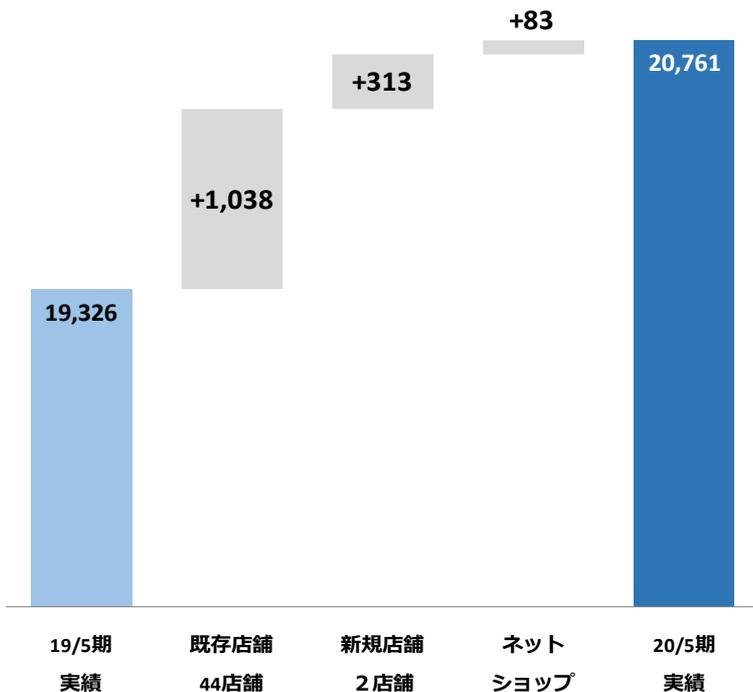
### 営業利益の増減要因

- 人件費や運搬費等の増加に加え、第4四半期の売上減少に伴う売上総利益の減少から減益

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前期比		19/5期	20/5期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率	実績	実績	増減額	増減率
アメリカ事業	19,326	20,761	+1,435	+7.4%	1,408	1,834	+426	+30.3%

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- SNSを活用した情報発信や、キャッシュレス決済サービスの拡充など、顧客利便性の向上に取り組み、来店客数が増加していることが増収に寄与、既存店売上は前期比 5.7%増

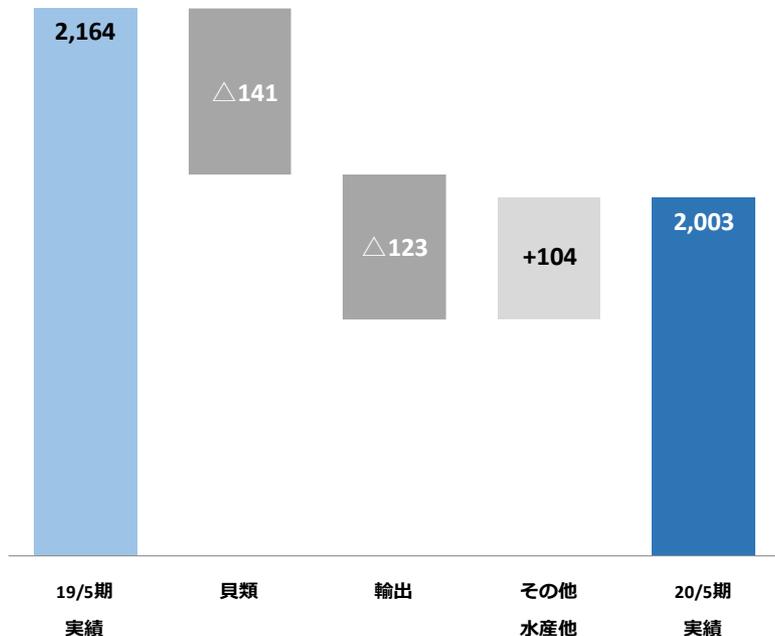
### 営業利益の増減要因

- 売上増加に伴い売上総利益が増加したことから営業利益は大きく改善

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	19/5期	20/5期	前期比		19/5期	20/5期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率	実績	実績	増減額	増減率
水産品事業	2,164	2,003	△ 160	△7.4%	51	12	△ 38	△75.0%

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- ・ 貝類、輸出販売ともに前年を下回る
- ・ 3月以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響から外食向けや給食向けの販売が低迷

### 営業利益の増減要因

- ・ 売上減少に伴う売上総利益の減少等により減益

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	19/5期	20/5期	
	5月末	5月末	増減額
流動資産	10,969	9,006	△ 1,962
固定資産	7,824	7,559	△ 265
総資産	18,793	16,565	△ 2,228
流動負債	11,292	8,430	△ 2,862
固定負債	2,801	3,367	+566
負債合計	14,093	11,798	△ 2,295
純資産	4,700	4,766	+66
1株当たり純資産 (円)	354.71	359.75	+5.04
自己資本比率	25.0%	28.8%	+3.8%

## 主な増減要因

### ■ 流動資産

受取手形及び売掛金の減少 △2,139

### ■ 固定資産

建物及び構築物の減少 △212

### ■ 流動負債

支払手形及び買掛金の減少 △2,014

短期借入金の減少 △668

### ■ 固定負債

長期借入金の増加 +433

### ■ 純資産

利益剰余金の増加 +106

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	20/5期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 494
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 571
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	39
現金及び現金同等物の期首残高	379
現金及び現金同等物の期末残高	419

## 主な増減要因

### ■ 営業キャッシュ・フロー

仕入債務の減少	△2,014
売上債権の減少	+2,139
税金等調整前当期純利益の計上	+401
減価償却費の計上	+521

### ■ 投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の取得による支出	△260
有形固定資産の取得による支出	△195

### ■ 財務キャッシュ・フロー

長期借入による収入	+1,500
長期借入金の返済による支出	△1,231
短期借入金の純減額	△668

## 2. 2021年5月期 業績見通し

# 通期業績予想

(単位：百万円)	20/5期		21/5期	
	実績	計画	前期比	
			増減額	増減率
売上高	60,659	56,000	△ 4,659	△ 7.7%
営業利益	400	100	△ 300	△ 75.0%
売上高比	0.7%	0.2%	△ 0.5%	
経常利益	473	150	△ 323	△ 68.3%
売上高比	0.8%	0.3%	△ 0.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	218	55	△ 163	△ 74.9%
売上高比	0.4%	0.1%	△ 0.3%	

## 一定の前提条件のもと業績予想を策定

外商事業・水産品事業においては、新型コロナウイルス感染拡大の与える影響が、少なくとも次期の第2四半期までは相当程度あり、その後期末（2021年5月）にかけて徐々に従来の売上水準に近いところまで回復していくことを前提

アミカ事業においては、外食事業者の来店客数が徐々に回復していくとともに、外出自粛による一時的な家庭内消費の高まりは落ち着いていくことを前提

## 外商事業

- ✓ コロナ禍における得意先状況に応じた提案営業の強化
- ✓ 様々な業態に対する新規開拓の強化と既存得意先との取引深耕
- ✓ 物流費をはじめとする経費抑制

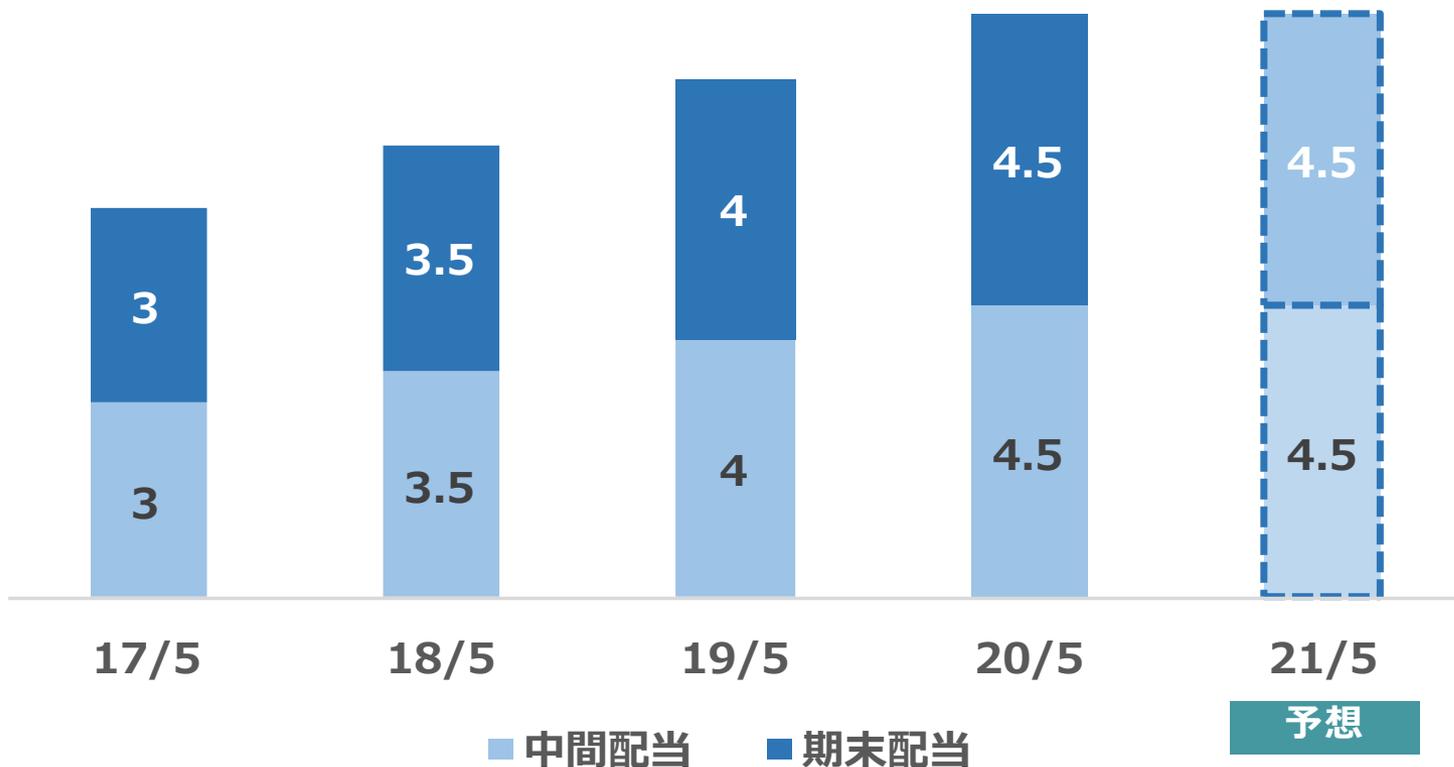
## アミカ事業

- ✓ 新規出店と既存店舗の活性化
- ✓ ネットショップの売上拡大
- ✓ 業務の効率化による人件費の抑制

## 水産品事業

- ✓ 国内外の新規開拓、輸出販売の取組み強化
- ✓ 事業間の連携強化による販売網の拡大

## 1株当たり配当金（円）



減収減益ではあるものの、継続的かつ安定的な配当という基本方針のもと  
2020/5期は通期で1円の増配、次期は年間9円の計画

## 3. 補足資料

会社名	株式会社大光 (東京証券取引所 市場第一部：3160)
代表者	代表取締役社長 金森 武
本社	岐阜県大垣市浅草二丁目66番地
創業	1948年(昭和23年) 6月
設立	1950年(昭和25年) 12月
事業内容	業務用食品卸売および小売業
事業所・店舗	外商事業：10事業所 アミカ事業：46店舗
子会社	株式会社マリンドリカ
資本金	10億76百万円 ※
発行済株式総数	13,450,800株 ※
株主数	14,115名 ※

- (注) 1. ※ はすべて2020年5月末日現在の内容であります。  
2. 発行済株式総数のうち、自己株式が200,012株あります。

## 外商事業

〔業務用食品等  
卸売事業〕

外食・給食・惣菜など様々な「食」に関連する企業に  
業務用食品等を販売

対象顧客：大手外食チェーン、中規模外食業者を対象

## アミカ事業

〔業務用食品等  
小売事業〕

業務用食品スーパー「アミカ」及び、業務用食品を販売  
するネットショップを展開

対象顧客：小規模外食業者、一般消費者を対象

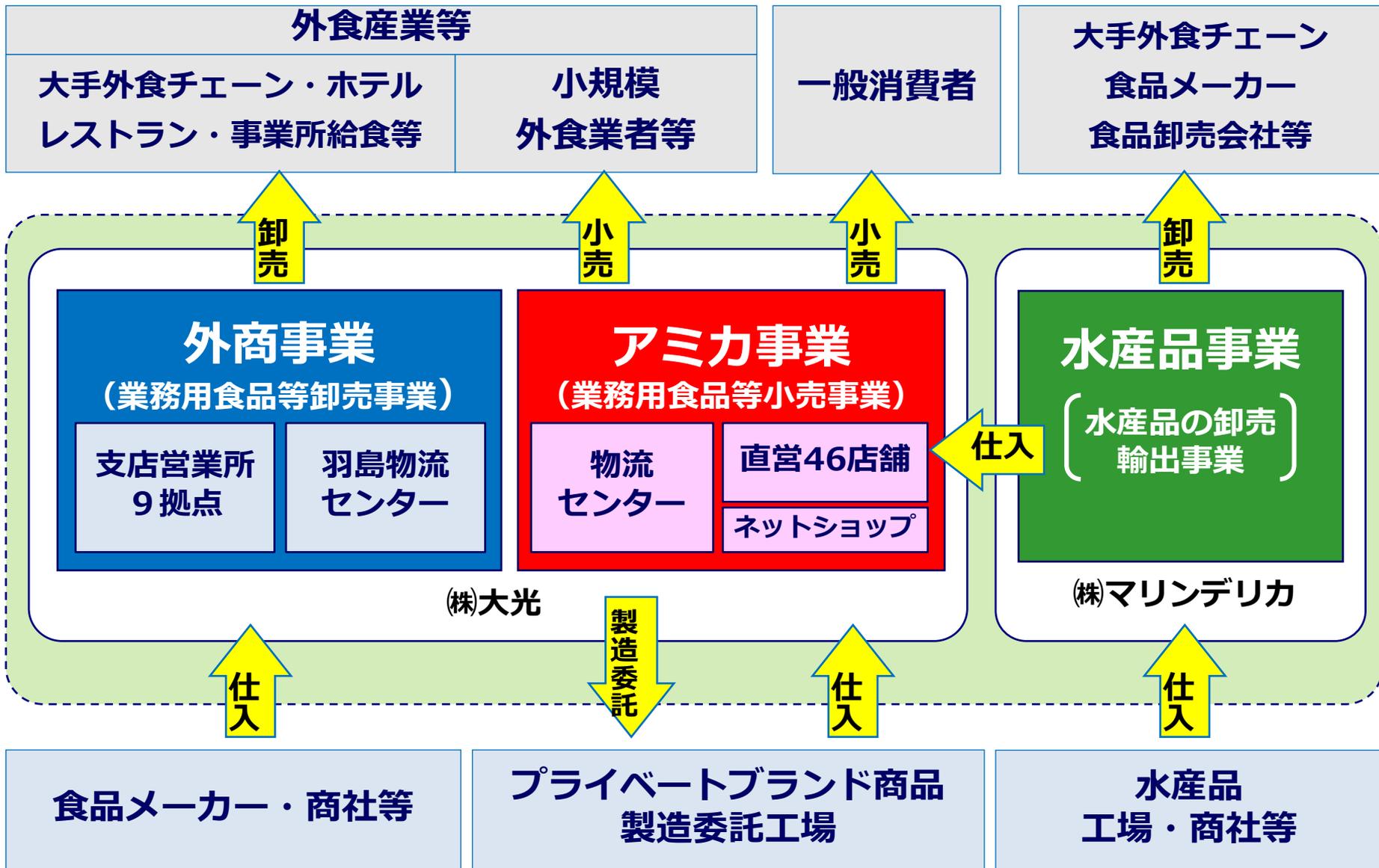
## 水産品事業

〔水産品の卸売  
輸出事業〕

貝類を中心とした水産品の国内販売、輸出販売

対象顧客：全国中央市場、水産会社、食品問屋、  
大手外食チェーンのレストランなど

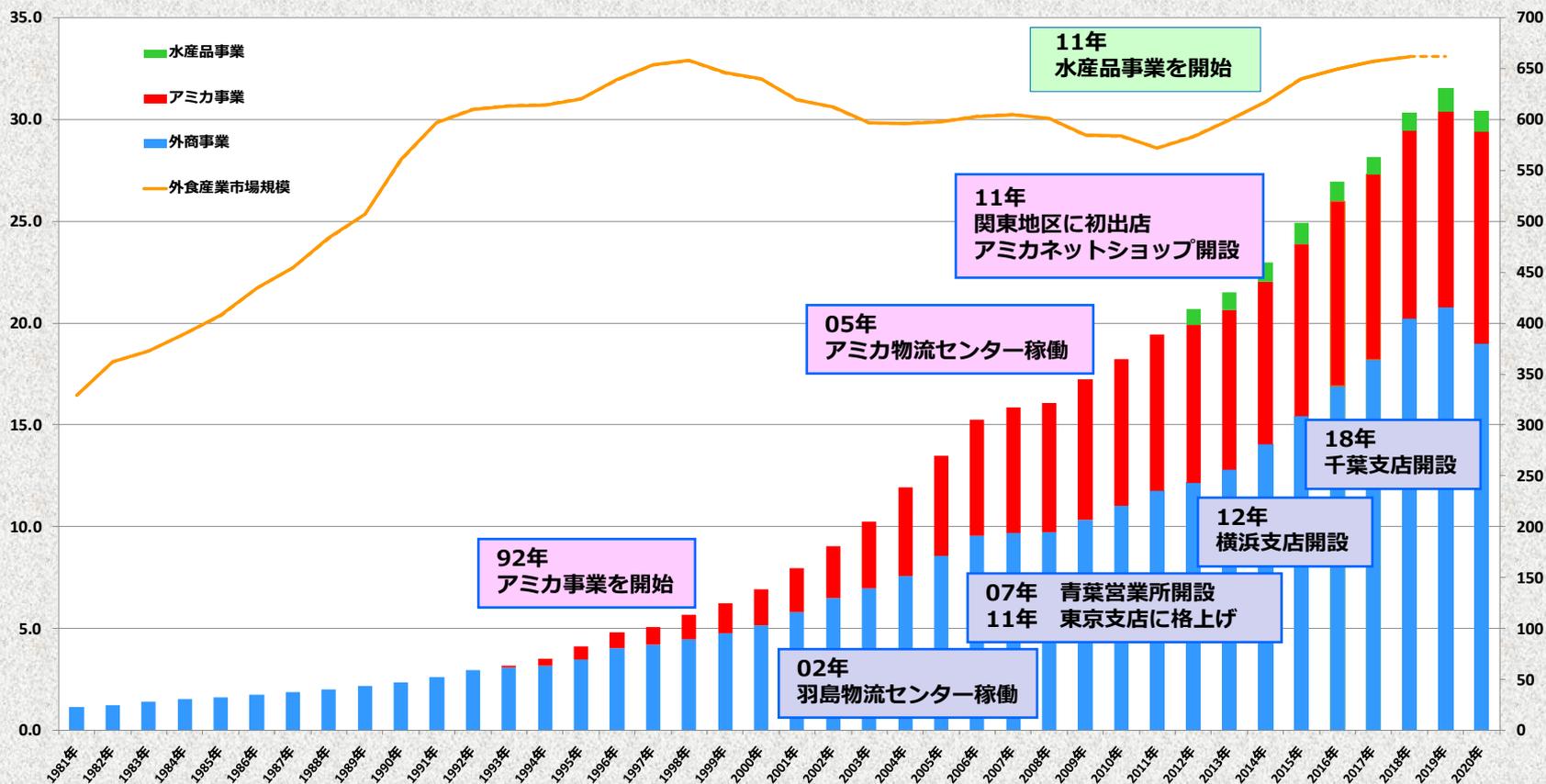
# 事業構造



## 外食産業市場規模が横ばいの中、成長を継続

単位：兆円

単位：億円



出所：外食産業総合調査研究センターの推計より当社が作成

本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものであります。

通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、変更する可能性、及び本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

<お問い合わせ先>

株式会社大光 経営企画室

電話：0584-89-7823（直） FAX：0584-89-7333

E-mail：ir@oomitsu.com

http://www.oomitsu.com/

証券コード **3160**